

第3種郵便物認可



いたためこの報告数も氷山型がある。自然界では小山の一角ではないかと鳥が、病気になる前にこの見方が強い。これらのウイルスを保有している。特に深刻なのはインド

千世紀には、一九一八大で約六十四万人が死亡

私論公論

災害対策に関して、計算機科学が果たしうる新たな役割を提案したい。

地震や洪水などの災害や事故で大切な品物を無くす人は少なくない。写真、日記、親しい人からの贈り物などは、思い出の品として、所有者にとって本当に重要なものだろう。思い出の品を無くした人は、過去の幸せな時間を否定された気になり、人生を悲観して、前向きになることが難しい。人はしっかりと、幸せな過去を確認できて、初めて将来に向き合えるのである。過去が不安定な状態では未来志向にはなれない。

災害時の心のケア



立命館大情報理工学部教授

仲谷 善雄氏

なかに・よしお 1958年生まれ。大阪大学理学部卒業。三菱電機中央研究所、米スタンフォード大言語情報研究センターの研究員などを経て、2004年から現職。認知工学専攻。共著に、「ヒューマンインタフェースの心理と生理」。

れを用いて自分の過去を確認して、過去を振り返りやすくしたり、他者とコミュニケーションを行うためのシステムの研究開発を行っている。「思い出の品を無くした人は過去の幸せな時間を否定された気になり、人生を悲観して、前向きになることが難しい。人はしっかりと、幸せな過去を確認できて、初めて将来に向き合えるのである。過去が不安定な状態では未来志向にはなれない。」

ロケ日記などをどのように効果的に管理するかが主なテーマとなっており、思い出の品がない状況を扱うわけわかれの研究は独特のものである。そもそも思い出とは特定の出来事の記憶というよりも、ある期間の要約である場合が多い。「あのころよく〇〇ちゃんを対象として、思い出の品を」と遊んでいた」という思い代わりに計算機がトリガーを出し、写真にも日記にも提供し、それによって思い出が記録されず、頭の中になかった内容をうまく計算機に取り出し、一タペースに登録管理し、その目に見えるようにすること

思い出再生で未来志向に

をトリガーとして被験者に提示し、トリガーの違いによる想起の容易さや内容の違いなどを調べる実験を行った。その結果、人によって想起しやすいトリガーが異なること、文字だけでは想起が難しいこと、航空写真は地図と組み合わせた方がよいことなどが分かった。また、時間をあけて同じトリガーを見ると、違う内容が想起された。これは、思い出が単に過去の記録ではなく、その人の現在の状態(興味の対象、体調などに影響された「現在から見た過去の再構築」であることを反映している。その人に合ったトリガーを用意するとともに、想起の変化をうまく扱える仕組みが必要だ。

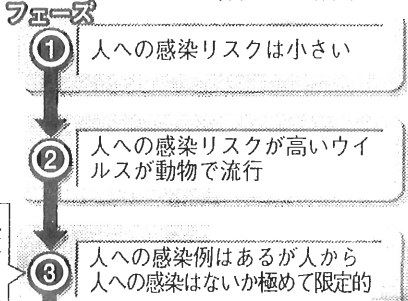
ワクチンなど対策は。政府が2005年に決定した新型インフルエンザ対策行動計画の柱は、ワクチンと治療薬の備蓄。しかし、いずれも悩ましい問題を抱えている。

十分な効果が期待できるワクチンは、新型の発生後にしか作れず、製造には半年以上かかる。そこで、アジアの患者から採取したH5N1型ウイルスを基に「プレパ

ワクチンの効果は？ 備蓄も有効性未知数

ンデミックワクチン」を製造。原液の状態では1000万人分の備蓄は、1000人以上の患者を治療するために必要

新型インフルエンザ警戒フェーズ



出現は近いのか。警戒レベル現在。出現は近いのか。警戒レベル現在。出現は近いのか。警戒レベル現在。